

文 月 日暮れて熱氣もやゝ治まる頃、天が

上に自然の燈火が涼氣を投げる。夏の宵空は最初のアマチア1を呼ぶ事が多い。

1939年

8月の天象

恒星界 北斗の柄も、日焼して西に傾き、春

の名残りも殆んど姿を消した。中天には織

女の青白い光り、南にはアンタレスの赤い光り、小氣味悪い程の白い射手座附近の銀河、其等數多の星座に飾られて、夕涼みの興を副へる。東には赤い赤い火星が、恐らく人々の天空への興趣を湧き立たせすにはおくまい。今年の八月は例年よりも更に賑かだ!! 更に夜更けて、火星が南天に君臨する頃水瓶や、“魚”座等の秋の姿が、稍々涼氣らしいものをば、かすかに伴つて昇つて来る。夜露が少し降りた様だ。秋も遠くないのだらう。

太陽 “蟹”座中部より“獅子”座の中部へ移る。略表にすれば

日付	赤經	赤緯	晝間	夜間	夕刻薄明終焉時刻
月 日	時 分 秒	° ' "	時間 分	時間 分	時 分
8 1	8 41 5	+18°18'	13 54	10 06	20 41
6	9 0 26	17 1	13 46	10 14	20 36
11	9 19 32	15 37	13 37	10 23	20 29
16	9 38 24	14 6	13 28	10 32	20 21
21	9 57 3	12 30	13 18	10 42	20 13
26	10 15 29	10 49	13 08	10 52	20 53
31	10 33 45	9 3	12 58	11 2	19 57

暑さの絶頂は、内地では平均8月上旬に在る。太陽は次第に南へ進み月末は春4月中頃と同緯度にまでなるが、依然この月中は暑い。

月 “水瓶”座に月齢15.6の月が始まり、一周して、更に“魚”座に到つて9月に移る。例に従つて諸相を示すと、

日付	月齢	時刻	視直徑	星座	記事
月 日		時			
8 2	16.6	9	29'25"	水瓶	最遠
8	22.6	18	30.36	羊	下弦
15	0.3	12	33.27	獅子	新月
15	0.3	17	33.27	〃	最近
22	7.3	6	30.24 (21日)	天秤	上弦
29	14.3	12	29.24	水瓶	最遠
30	15.3	7	29.24 (29日)	〃	満月

(時刻は日本中央標準時、月齢、視直径は同21時の値)

- 水星** 月始めは未だ夕空にあるが、10日は内合する。以後は曉天に移つて、月末28日には最大離隔に達する。この頃曉天の水星を見るには都合よい。
- 金星** 曉天の星であるが、全く太陽に近づいてしまつた。追ひ着く迄は今一息と云つた所である。残念乍ら、如何に -3.5 等級でも、こう太陽に近くては見られそうにもない。
- 火星** 先月末に對衝は過ぎたとは云へ、観測上には何等變りはない。日没と同時に東に昇るのが早くなるから、夜更を待たずとも、夕方から見られる様になつて、観測者には寧ろ先月以上好條件である。位置は“射手”座の東部に在るが、動きは僅かである。光度は $-2.5 \sim -1.9$ 、視直径は $24''.06 \sim 20''.31$ と少しづつ減少するとは云へ、八月は概して天候佳良が常だから、此の機会を見逃さぬ様に。猶ほ火星の南極冠は、益々縮少し、南半球の春はいよいよ濃い筈だ。しかも其の南半球の方が見へ易い位置に来て居る。
- 木星** 曉天の星“魚”座の中部で、先月末停留し、今月は既に徐々乍ら逆行しはじめた。對衝ももう遠くない。夜半過ぎると東に此の巨人が、西の赤い火星と光輝を競ひつつ、悠々迫らず登場して来る。光度は $-2.3 \sim -2.4$ 、視直径も $43''.1 \sim 45''.2$ へと、巨人振りを發揮して來た。
- 土星** 同じく曉天の“羊”座西端に在つて、木星とは2時間遅れて昇るが、此の星も14日に停留に來て、以後逆行する。光度は $+0.5 \sim 0.4$ へ、視直径も $16''.3 \sim 17''.1$ と、火星にさして劣らぬ程となる。更にそれよりも、あの美しい環の傾きが 16.2 にも達し、今年中では一番傾く。土星の美觀としては、此の位の傾きが最も美しい。
- 天王星** 曉天の星“羊”座に居る。土星よりは又1時間半許り東に遅れて居るが、觀望には一寸早い。其れでも月末28日には停留し、以後は逆行に移る。
- 海王星** 夕方の星。太陽に近くて駄目。位置は獅子座。
- ユリウス日** 8月1日21時 2429457.0 に當る。
- 流星** 例年のペルセウス流星は、月明がないから誠に好條件だ。10~15日頃に中天から輻射される。